

広島出身/在住の若手現代美術作家 5 名が、基町で作品を展示



前半 11月6日(土)～21日(日) | 後半 12月4日(土)～12日(日)

会場 基町住宅地区 (ユニテ、M98 〈make〉、オルタナティブ・スペース・コア)

「まほらプロジェクト」は、11月6日(土)～21日(日)及び12月4日(土)～12日(日)の期間、基町住宅地区にて「基(もと)いの町」展を開催します。

広島出身/在住の若手現代美術作家 5 名が参加し、前半(11/6～21)は参加作家のこれまでの作品を紹介し、後半(12/4～12)で、それぞれが基町で行ったリサーチの過程を共有します。今後、継続的に作家による地域のリサーチを進め、来年度、基町をテーマにした展覧会の実施を目指します。

広島がはじまった(基いの)町であり、戦後は原爆からの復興を象徴する場所ともなった基町住宅地区。近年は、少子高齢化や外国籍世帯の増加による多文化化が進んでいます。豊かな歴史を持ち、現代社会の複雑な現状を写し出すこの場所で、作家らが何を見つめ、作品化していくのか、ぜひそのプロセスも含めご覧いただければ幸いです。

《本企画のポイント》

1. 広島出身/在住の若手現代美術作家による作品展示とリサーチ
2. 広島城に近く、戦後の復興の象徴とも言われる基町地区でのプロジェクト
3. 時間をかけて、ひとつの地域と関わり作品化する試み

《展示概要》

展覧会名 基(もと)いの町

会 期 前半 2021年11月6日(土)～11月21日(日)

後半 2021年12月4日(土)～12月12日(日)

時 間 12:00～17:00(最終日は15:00まで)

休 場 日 月・火曜日

観 覧 料 無料

会 場 基町住宅地区 (ユニテ、M98 〈make〉、オルタナティブ・スペース・コア)

問 合 せ 基町プロジェクト活動拠点 M98 ☎ 082-555-8250 (水～日 11:00～17:00)

主催: まほらプロジェクト 共催: 基町プロジェクト 協力: オルタナティブ・スペース・コア

本プレスリリースについてのお問い合わせ

まほらプロジェクト 基町プロジェクト活動拠点 M98 (増田、片島)

広島市中区基町 16-17-2-103 | ☎ 082-555-8250 (水～日 11:00～17:00)

《参加作家》

久保 寛子



1987 年広島県生まれ。広島市立大学彫刻科卒業、テキサスクリスチャン大学美術修士課程修了。先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説のリサーチをベースに、身の回りの素材を用いて作品を制作する。前期は農耕民族の文化にインスピレーションを受け制作された多様な仮面を展示する。

写真：《現代農耕文化の仮面》2019 年

鹿田 義彦



1983 年広島県生まれ、広島県在住。2012 年広島市立大学大学院博士課程修了。視覚芸術家として美術作品の制作、平面系のデザイン、写真表現の研究、造形教育を行っている。前期は、基町の過去と現在が交差する写真作品を展示する。

写真：《過去と現在の山にのぼり、銀未来の海をながめる》2019 年

寺江 圭一郎



1981 年広島県生まれ。大分大学大学院教育学研究科修了。家族、神、他者や自分自身など、様々な対象に近づく方法を、四苦八苦しながら探る試みを続けている。前期は中国・重慶で出会ったホームレスの青年との共同制作作品を展示する。

写真：《あなたの反応が私をつくる。私の行動があなたをつくる。》2016-2019 年

平野 薫



1975 年長崎県生まれ。広島市立大学大学院修了（2003 年）。布に残る気配に着目して、古着を糸へとほどき新たな形へと生まれかえるという手法を用いて作品を制作。近年は個人の記憶と社会や歴史の関係について模索。前期は鯉のぼりをほどいて制作されたインスタレーションを展示する。

写真：《untitled-koinobori red-》2017 年

古堅 太郎



1975 年 広島県生まれ、広島県在住。2001 年、広島市立大学大学院芸術学研究科修了。自分自身のルーツや場所に固有の歴史をリサーチしながら、共同体の中で変化していくアイデンティティをテーマに制作。。前期は戦後に形成された平和都市「広島」のアイデンティティーに注目した作品を展示。

写真：《完璧な抱擁》2019 年

※2021 年度広島市立大学特色研究費「基町の地域社会に關与する美術の実践」による実施

※新型コロナウイルス感染症の影響により会場等を変更することがあります